

## 「明日を考える会」発足に向けた巻頭言

順天堂大学医学部 病理・腫瘍学 教授  
 一般社団法人 がん哲学外来 理事長  
 「明日を考える会 ～次世代の社会貢献～」  
 会長 樋野興夫

『明日を考える会～次世代の社会貢献～』が、下記のメンバーで、発足されることになった。歴史的快挙である。

**会長：樋野興夫**

**副会長：角田則明**

**編集長：田口謙治**（ニュースレター担当）

すべての始まりは「人材」である。行動への意識の根源と原動力をもち、「はしるべき行程」と「見据える勇氣」、そして世界の動向を見極めつつ、高らかに理念を語る「小国の大人物」出でよ！

「最も必要なことは、常に志を忘れないよう心にかけて記憶することである」（新渡戸稲造）。「目的は高い理想に置き、それに到達する道は臨機応変に取るべし」（新渡戸稲造）の教訓が今に生きる。「責務を希望の後

に廻さない、愛の生みたる不屈の気性」が「人生の扇の要」の如く甦る。「ビジョン」は人知・思いを超えて進展することを痛感する日々である。

今、困難な時代を迎えている日本国において、幅広い学識と豊かな国際性を持つ新渡戸稲造に注目が集まって来ている。ことに重要なのは、国際連盟事務次長時代の新渡戸稲造が設立した知的協力委員会である。世界の幸福を願い、世界中の叡智を集めて設立した知的協力委員会には哲学者のベルグソンや物理学者のアインシュタイン、キュリー夫人らが委員として参加、第一次世界大戦後に困窮が著しかった各国の生活水準の調査や知的財産に関する国際条約案を検討し、各国の利害調整にあたった。この知的協力委員会の後身がユネスコである。

人間の身体と臓器、組織、細胞の役割分担とお互いの非連続性の中の連続性、そして、障害時における全体的な「いたわり」の理解は、世界、国家、民族、人間の在り方への深い洞察へと誘うのであろう。今こそ、「21世紀の知的協力委員会＝『明日を考える会～次世代の社会貢献～』」の再興の時である。

## 人生の不条理を超えて

OCCカフェ スタッフ サンピラー（Sun Pillar）

こんなにも不条理な事が有るとその時は思った。今までは、そんなに意識はしていなかったけれど…自分自身がその立場になると、人は弱いものだと痛感した。でも、そこで立ち止まっては何も変える事が出来ないの、今こそ自分に与えられた事、出来る事を再認識する時を与えられたと考え、そこから再び一緒に歩む事を教えて頂いた。

なにも背伸びする必要は無く、出来る事を考え寄り添って行こうと思う。自分が寄り添い、配慮を行い、思いやりを持つ事は、巡りめぐって自分にも与えられると言う事を改めて学んだ。持ちつ持たれつ…。

なにも肩肘を張って頑張る事は無い、ムリをする事も無い、我慢しなくて良い、ただ自分の気持ちに素直になりできる事は何かを考え、その事に向き合い、全力を尽くせば良いと思う。結果なんて考えなくてよい。出来る事が少なくなったなどと考える事は無い。

それには、日常において自分の置かれた立場を俯瞰的に眺め、役割を全うする。その事で自分の存在価値が認められるであろう。笑顔でいれば、相手も笑顔を見せてくれる。相手の顔は自分の鏡だ。自分が自分でいられるために…。その事を心の片すみに！！

※ 実業之日本社「『今日』という日の花を摘む」より一部引用抜粋